

昭和47年度冬作関係除草剤

試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

当協会委託の昭和47年度冬作〔麦、イグサ、
水稲刈跡、畦畔、多年生雑草対象など〕除草剤
作用特性および、適用性試験成績検討会が、去
る9月4日東京〔農林年金会館〕において開催
された。その結果の概要は次のとおりである。

1 供試草剤の動向

供試除草剤数について、対象別の傾向は第一
表のとおりである。昨年どおり水稲刈跡、麦類、
イグサ類対象の順であるが、水田裏作の減少と
ともに、全般には、供試薬剤、点数とも実減
少の傾向がみられる。

2. 試験結果の概要

昭和47年度供試薬剤数は、15薬剤でのべ
点数59である。供試薬剤の成分一覧は第2表
のとおりであるが、これらの供試薬剤中有望で
あるとされ、実用化および実用化とともに、一
部継続とされた薬剤は第3表のとおりであり、
対象別には、麦類対象のトリブニール水和剤、B
—3356乳剤、いぐさ類対象、トリフルラリ
ンA粒剤、DCBN₃粒剤、X—52粒剤、畦
畔（チゴザサ、チガヤ、キシユウスズメノヒエ）対
象、DPA粒剤の6薬剤の実用化の判定をうけ
た。これらの使用基準は、第4表のとおり。

<第1表> 冬作関係除草剤試験供試薬剤数の推移

対 象	試 験 年 次 別 供 試 薬 剤 数									
	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47
麦 類	45	30	25	13	7	9	8	11	8	6
い ぐ さ	5	6	4	4	4	3	0	0	0	3
水 稲 刈 跡	0	1	6	4	4	3	5	7	4	4
マ ツ バ イ	6	9	9	7	15	7	11	17	7	0
ミズガヤツリ	7	7	8	3	6	8	10	7	2	0
ヒ ル ム シ ロ	0	3	2	1	2	0	0	0	0	0
ク ロ グ ワ イ	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1
ウ リ カ ワ	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0
スズメノテボウ	0	0	0	0	0	0	3	0	4	0
休 耕 田	0	0	1	6	0	0	0	0	0	1
畦 畔	24	32	20	12	1	1	1	1	0	0
そ の 他	87	88	76	50	39	32	43	47	25	15
計										

＜第2表＞ 昭和47年度冬作関係除草剤供試薬剤成分一覧表

対 象	薬 剤 名	剤型	有効成分および成分含有率	委 託 会 社
1) 麦 類	トリブニール	水和	・1,3-ジメチル-3-(2-ベンゾチアゾリ ン)ウレア 70%	日本特殊農薬製造
	B-3356	乳	・S-(2クロロベンジル)N,N-ジエチルチ オールカーバイド 50%	クミアイ化学工業
	NP-17	水和	・ウレア系 70%	日 本 曹 達
	DCBN ₃ ・MCP	水和	・DCBN ₃ ・MCP 33.3% 16.7%	石 原 産 業
	SLD-695	水和	・CIPC・linuron 17.5% 7.5%	同 上
	HOK-7501	乳	・フェノチオール；2-メチル4-クロルフエノ キシチオ酢酸S-エチル 20%	北 興 化 学
2) い ぐ さ	トリフルラリンA	粒	・α・α・α-トリフルオール-2,6-ジニトロ N,N-ジプロピル-パラトルイジン 3%	塩 野 義 製 薬
	DCBN-3	粒	・2,6-ジクロロチオベンズアミド 3%	石 原 産 業
	X-52	粒	・2,4-ジクロル-3'-メトキシ-4'-ニトロジ フェニルエーテル 7%	同 上
3) 水稲刈跡	デゾレートA	粉	・NaClO ₃ 60%	日本カーリット
	M&B-9057	液	・N-メトキシカルボニルスルファニルアミド (アージラン) 37%	塩 野 義 製 薬
	MON-39	乳	・N-(フオスフォノメチル)グリシン-イソプ ロピルアミン塩	日本モンサント
	K-370	水和	・2,4-PA・Atrazine 60% 30%	日産化学工業
	K-371	水和	・2,4-PA・Ametryne 60% 6%	同 上
4) 畦 畔	DPA	粒	・2,2-ジクロルプロピオン酸 15%	石 原 産 業

＜第3表＞ 昭和47年度冬作関係除草剤実用化判定表

区 分	実 用 化	実 ～ 継	継 続	継?	中 止
1) 麦 類		・トリブニール 水和 ・B-3356 乳	・NP-17水和 ・HOK-7501乳		・DCBN ₃ ・MCP ・SLD-695
2) い ぐ さ	・トリフルラリンA粒 ・DCBN ₃ 粒 ・X-52 粒				

区 分	実 用 化	実 ～ 継	継 続	継?	中 止
3) 水稻刈跡		・K-371 水和	・デゾレートA 粉 ・M&B-9057液 ・K - 370水和		
4) 畦 畔		・DPA 粒			

＜第4表＞ 昭和47年度冬作関係除草剤実用化除草剤使用基準

区 分	薬剤名	判 定	処理法	処理時期	使用量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
Ⅰ 麦	トリブニール水和剤	実・継	生育期 茎葉処理	小麦 3葉期まで 雑草 2～3葉期	(成分) 20～30 g/a	火山灰土壌 沖積土壌 壤土～埴土	寒冷地～ 暖地 (畑作・水 田裏作)	・処理時期を厳守
	B-3356 乳剤	実・継	土壌処理	麦類の播種後 (雑草発生前)	(成分) 50～60 g/a	沖積土壌 砂壤土～ 埴土	温暖地以西 水田裏作	・イネ科優占地帯
Ⅱ いぐさ	トリフルラ リンA 粒剤	実	土壌処理	3月下旬～ 4月上旬	(成分) 400～ 600g/a	沖積土壌 壤土～埴土	イグサ栽培地 全 域	・ノビエの発生初期に均一 散布 ・広葉優占圃ではDBN等 との体系使用する。
	DCBN ₃ 粒剤	実	土壌処理	2月下旬～ 3月上旬 (冬雑草) 4月上旬以降 (春～夏雑草)	(成分) 12～9 g/a	壤土～埴土	イグサ栽培地 全 域	・湛水可能な所は、DBN に準じて使用
	X-52 粒剤	実	土壌処理	4月上旬～中旬 ノビエ等一年 生夏雑草の発 生始	(成分) 28～42 g/a	壤土～埴土	イグサ栽培地 全 域	・冬雑草対象薬剤(DBN, DCBN ₃ 等)との組み あわせで使用する。
Ⅲ 畦 畔	DPA 粒剤	実・継	(チゴザサ) 茎葉兼土壌	10月	㊦ 450～ 600g/a	全土壌	温暖地東部 寒冷地南部	・チゴザサが緑色を保っ ている間に使用する。
			(チガヤ, キンユウス ズメノヒエ) 土壌処理	4月中旬～ 5月中旬 雑草発生初期	㊦ 150～ 225g/a	全土壌	暖 地	・発芽再生期

編 集 後 記

寒露……寒々と露の結ぶ頃……ともなると、
夏雑草は枯れはて、その片すみから冬雑草が顔
をのぞかせている。冬は雑草を枯らす必要はな
いが、農作物と競合するような雑草は枯らさな
ければなるまい。冬雑草は、広葉雑草が多く、
退治も比較的簡単であるが、作物と競合しなけ
れば、何とか助けてやりたいと思うことがある。
北風の強く吹く頃、雑草がある程度生えていれ
ば、舞い立つ土埃を抑えてくれるから。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都港区芝西久保桜川町26番地
電話 東京(03)502-4188(代)

昭和48年10月発行

第7巻第7号

¥90(送料50)

編集人 日本植物調節剤研究協会常務理事 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)436-3388番